

科目名	ドイツ語オペラ台本研究	授業期間	通 年
担当教員	長谷川悦朗	科目 No.	GEN3382
受講対象	全専攻、3・4年	単位数	4単位

目 標 ／ 概 要	春学期はモーツァルト作曲《魔笛》(台本:シカネーダー)、秋学期はヨハン・シュトラウス2世作曲《こうもり》(台本:カール・ハフナー／リヒャルト・ジェネ)を扱う。ドイツ語リブレットの系譜をリブレット全般の歴史記述の中に位置づけるとともに、リブレットが執筆される以前の段階からオペラ作品として舞台上演されるまでの過程において担う役割の歴史についても考察する。題材として扱う両方のリブレットに即しては、台詞及び歌詞と、それ以外の要素の双方が探求対象となる。台詞及び歌詞については、語順や語彙の側面から、地域的特質や現代の日常言語との差異にも留意しながら読解してゆく。それ以外の要素に相当する、登場人物一覧やト書きも等閑視することなく分析する。授業内では複数の上演の記録映像を視聴し比較検討することも予定している。ドイツ語オペラ台本に対する知見と理解を深めることが目標である。
-----------------	---

授 業 計 画	春 学 期					
	1	オペラ史記述におけるドイツ語オペラ				
	2	ドイツ語オペラの系譜				
	3	18世紀ドイツ語圏の精神文化				
	4	モーツァルトのオペラ作品群				
	5	シカネーダー				
	6	18世紀ウィーンの舞台文化				
	7	オペラにおける異国趣味				
	8	メルヒェンという芸術ジャンル				
	9	啓蒙思想とフリーメーソン				
	10	動物の象徴性				
	11	数字の象徴性				
	12	モーツァルトにおける女性像				
	13	《魔笛》上演の系譜				
	14	オペラ演出				
	15	オペラ研究				
	秋 学 期					
	1	オペラとオペレッタ				
	2	ジングシュピールからシュピールオペラへ				
	3	オッフエンバックとドイツ語オペレッタ				
	4	ウィーン・オペレッタの系譜				
	5	19世紀後半ウィーンの舞台文化				
	6	ヴァーグナーとオペレッタ				
	7	パロディという文化				
	8	オペレッタの同時代性				
	9	他民族都市としてのウィーン				
	10	シュトラウス一家				
	11	ヨハン・シュトラウス2世				
	12	《こうもり》上演の系譜				
	13	オペレッタ上演				
14	オペレッタ研究					
15	期末テスト及び解説・講評					

準備学習の内容	あらかじめ対訳を参考にしながらドイツ語文章を音読していただくこと。					
履修上の注意	なるべく休まずに出席し続けること。					
評価方法	試 験	課題(レポート含)	発 表	平常点	その他	合 計
	○			○	○	
	補 足	平常点としては出席するだけでなく積極的に参加する姿勢・態度で臨んでいたかどうかという観点も考慮される。				
教材等	モーツァルト『魔笛』(荒井秀直訳)、音楽之友社(オペラ対訳ライブラリー) ヨハン・シュトラウスⅡ『こうもり』(田辺秀樹訳)、音楽之友社(オペラ対訳ライブラリー)					